

## 節分会祭文

謹み敬ことつて真言教主大日如来西わ部界会、殊ことに別わいては薬師堂本尊聖者薬師瑠璃光如来、諸尊諸菩薩十二神将、観音堂本尊観世音菩薩、境内勸請諸佛諸神内外権実一切の聖衆しやうじゆに白して言さく。

伏おもんして惟おもんみれば安養寺本尊薬師如来は琵琶湖湖南の鎮護の靈像にして、聖武天皇勅願の古刹ぼんぜいにふさわしく靈驗誠よそんにあらたかなり。開運除厄の本誓ぼんぜい、余尊よそんに越え庶民守護の悲願たしやう、他聖まさに勝る靈応こやくいよいよは是れ高く巨益きつしん弥深ぼくし。

これをもつて本日節分の吉辰きつしんを卜して妙供みやうくを宝前に献じて、まず観音堂本尊・観世音菩薩の宝前において敬しく節分会の嚴儀を執り行なつたのち、午後より薬師堂において、妙供を宝前に献じて護摩の密法を修して法樂くわうを天尊てんそんに供くず。

ふりかえれば、大寒の日本列島は大寒波に襲われ、南の沖繩においても観測史上初めての雪がふる。まさに歴史的な寒波にうちふるえる。されどこの冬の極まる季節にも一輪二輪と安養寺境内の梅も開花して、参詣の人々を励まし、温ほほえさを与える。とくに熊谷俊亮住職並びに寺内関係者は寒さによく堪え微笑みかけるような梅の花に故直子寺族夫人の在りし日の姿を想起され、こよなく愛めでられる。時は移ろい来年は同夫人寂入されて六年、七廻忌の法要を控

え、峻烈しゅんれつの寒さの一関いつかんを越えて明四日は立春。

本日の節分は旧暦十二月大晦日に相当する日で、単に春夏秋冬の季節の節目でなく年が替かわる一年の大きな節目といわれる。

旧冬の邪疫じゃえきを駆逐くちくして、新春の福を願うところから「二陽来福」

の天を待つ「暹讎ついな」の行事が古代中国より伝わり、古く奈良時代よりわが国の伝統行事として執行されてきた。

邪疫、邪氣、即ち悪魔でこれを弘法大師さまは魔けぞくに繫属けぞくすれば生死とがの禍とがあり」と諭されている。平たくいえば、悪魔の誘いざない誘

惑さんぼうに乗れば不安な苦しみの生活が生じる」と。そこで「三宝きこうに帰向して仏教に違いせざれば、魔けぞく、繫属けぞくすること無し」と。つまり真理と、

真理を説いた仏と、それを正しく伝える僧侶との三つ、即ち三宝さんぼうを敬うやまい、仏教に背そむかねば、あらゆる執とらわれから解放され、安らかで心豊かな生活さんぼうをすることができると、教えられている。

新しい年を迎える節分は厄除やくよけ、塵ちりを払い落として元の清浄しよつじような姿かえに還かえる節目なり。一本の竹には上下それぞれに節目あって、区切りをつけている。その節目に優劣の差があるわけではなく皆んな平等。むしろ節目がなければ真まっすぐにしなやかに伸びることはできないのではないか。人の世も人生もまた同様なり。

肥大化むさぼした欲望からの「貪むさぼり」自己主張いかわがままからの争いい

り」、道理をわきまえない「痴かさ」の三つの毒を払い清めよう。心  
が本来浄らかであることは、池の水がもともと澄み透とおっているような  
もので、心のはたらきも同じことなり。厄を払い清めよう。

「福は内、心に住む塵、厄の鬼は外」

仰ちゆうぎ願あいみんはくば本尊聖者薬師如来並びに觀世音菩薩、衆庶しゆしよが微び  
衷ちゆうを哀愍あいみんして此の法味を嘗め、威光を倍増して速やかに転禍為福

の慈悲ほどこを施たまし玉へ、

重ねて乞う

山内安全 密教紹隆しやうりゆう 家業繁栄

除災招福 福寿如意にょい 乃至法界

平等利益

平成二十八年歳次丙申二月三日

京都府向日市寺戸町

亀光庵

沙門 土口哲光

敬ひのえさるって白す